

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 29 年 6 月 13 日現在

機関番号：15401

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26284038

研究課題名(和文)核・原爆と表象／文学に関する総合的研究

研究課題名(英文)General study on Nuclear Technology and Its Literary Representations

研究代表者

川口 隆行 (KAWAGUCHI, TAKAYUKI)

広島大学・教育学研究科(研究院)・准教授

研究者番号：30512579

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、冷戦期、ポスト冷戦期の国際的文脈を視野に収めながら、核・原爆の表象／文学を多角的に問い直すことによって、現在の課題に対応する新たな議論地平を切り開く研究を行った。

(1)サークル誌、地方文芸誌など地域メディア、マンガ、映像など視覚表象を含めた大衆メディアの実態を明らかにし、(2)反核・反戦言説、核の「平和」利用言説、核・原爆に関する科学言説、環境や身体の汚染に関する言説など、社会的・文化的言説と「原爆文学」との関係性を冷戦期、ポスト冷戦期の地政学的配置から検証したうえで、(3)現在の諸問題を問い直すためのデータベース構築を達成することが出来た。

研究成果の概要(英文)： Our project's main aim was to reconsider, in a multifaceted manner and against the background of our understanding of the global history in the (post-)Cold-War era, various literary/non-literary images of atomic bombs and nuclear energy.

The following is the three major achievements of our three-year project:(1)We were able to make a substantial exploration of the intricate relationships between nukes and such mass media as nationwide/regional literary journals, manga, and diverse films.(2)We were able to analyze the important links between the so-called "A-bomb literature" and different social/cultural discourses such as anti-nuke ones, anti-war ones, the ones regarding the peaceful use of nukes, the ones strongly related to the scientific value of nukes, and the ones particularly concerning the pollution of our bodies and environment.(3)We were able to establish a massive database readily available for further inquiries into our present-day unsolved issues.

研究分野：日本文学、近代日本文学、近代日本文化史

キーワード：原爆文学 核表象 冷戦 表象システム アメリカ 東アジア

### 1. 研究開始当初の背景

核・原爆表象に関する様々な問い直しが、九〇年代後半からさまざまに展開されてきた。さらに二〇一一年三月の東日本大震災以降は、原発問題と関連した議論も始まっている。表象 / 文学と社会運動や文化運動との関係を視野に収めた言説研究、雑誌研究や日本語文学の枠を超えた新たな対象の設定、問題発掘も始まっていた。こうした取り組みを基盤としながら、「原爆文学」研究をさらに幅広く学際的、総合的な内容へと発展させる必要が存在した。

### 2. 研究の目的

(1) 「原爆文学」の再評価とその枠組みの編成過程の検証

「原爆文学」の枠組みがいかに形成され、変容してきたかを検証する。大田洋子、原民喜、栗原貞子、井伏鱒二、林京子、大江健三郎、井上光晴、小田実らの再評価とともに、その生産、受容、批判の様態を明らかにする。その作業の過程で、既存の枠組みにおいて看過されてきた作品の発掘、位置づけを行う。また、ジェンダー、セクシュアリティ、帝国主義・植民地主義、環境問題、原発問題といった、とりこぼされがちであったテーマや領域を明らかにする。

(2) 文学に隣接する諸メディアにおける原爆・核の表象の調査と分析

核・原爆の表象の調査・分析を、被爆地広島、長崎のサークル誌・地方文芸誌といった地域メディア、マンガ、映像といった視覚表象とも深い関係にある大衆メディアにまで広げ、「原爆文学」と戦後日本のメディア編成との関係性を明らかにする。

(3) 国際的文脈を視野に入れた核・原爆をめぐる社会的・文化的言説の調査と分析

反戦平和言説や核・原爆に関する科学的言説、反原発運動をめぐる言説に関する資料を収集し、「原爆文学」を含めた核・原爆表象との関係を明らかにする。また、東アジアとアメリカの核・原爆表象の調査・分析を行い、核・原爆をめぐる集合的記憶の政治的社会的役割を冷戦期、ポスト冷戦期の国際的文脈に位置づける。

### 3. 研究の方法

日本近現代文学・文化研究者を中心に、英語圏文学・文化研究者を加えた研究組織を編成し、原爆の図丸木美術館学芸員、アメリカ、台湾在住の文学・文化研究者を研究協力者として、幅広い調査・考察を行った。ほかにも原爆文学研究会や戦後文化合同研究会などの関係研究組織のメンバー、さらには必要に応じて海外の研究者とも随時連携を図りながら、情報交換・意見交換の場を設定するようにした。

### 4. 研究成果

(1) 「原爆文学」とサークル誌、地方文芸誌

など地域メディア、マンガ、映像など視覚表象を含めた大衆メディアの実態を明らかにすることができた。特に以下の2点は重要な成果である。

従来ほとんど手付かずであった被爆地広島、長崎を中心としたサークル誌・地方文芸誌の実態調査、分析を通して、地域における原爆表現の生成と流通の実態を解明することができた。

マスメディアや大衆文化が社会に発信した核・原爆に関する言説についても、原爆に関する集合的記憶や核兵器・核実験に対する危機感、核エネルギーに関する期待感が形成される過程と、そこに作用していた社会的力学を明らかにすることができた。

(2) 反核・反戦言説、核の「平和」利用言説、核・原爆に関する科学言説、環境や身体の汚染に関する言説など、社会的・文化的言説と「原爆文学」との関係性を冷戦期、ポスト冷戦期の地政学的配置から検証することができた。特に以下の2点は重要な成果である。

50年代文化運動、70年代市民運動、さらには東アジアの民主化運動や反核運動、環太平洋地域の先住民権利運動などと核・原爆の表象 / 文学の生成、流通、受容の関係性を明らかにできた。

アメリカの「核文学」と日本の「原爆文学」のジャンル形成をつきあわせて検討することで、冷戦構造における地理的配置、地政学の問題と両者が深く関わっていることを明らかにできた。それはさらに、冷戦期から現在まで排除されてきたマイノリティの経験、それに関連する文学・文化の問題に光をあてることにもなった。

(3) 現在の諸問題を問い直すためのデータベース構築を達成することができた。

核・原爆に関わる思想、表現、運動を冷戦期およびポスト冷戦期の国際的文脈から解明することで、既存の「原爆文学」研究を、戦後日本社会を批判的に捉えなおすものへと再構築できた。具体的には以下の2点が中心である。

計8回開催した「戦後70年連続ワークショップ」(2014 - 2015)、国際会議「核・原爆と表象 / 文学 原爆文学の彼方」(2015)で研究成果を公開し、その内容すべてを『原爆文学研究』13、14、15号(2014、2015、2016)ですべて誌面化することができた。

「原爆文学」を、ジャンルや地域の越境、横断を不断に繰り返しながら再構築されるものと位置づけ、その名のもとに、核・原爆に関する文学・文化の堆積を批評的に浮かびあがらせる「原爆文学事典」の構想、執筆、編集作業を行うことができた。正式には、『原爆を読む文化事典』として2017年夏に出版予定である。アクチュアルな問いを喚起し、世界の見方に更新を迫り、「戦後70年」以後の公共的議論に有益な言説資源を提供する内容になったと考えている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計34件)

1. 川口隆行、特集にあたって、原爆文学研究、15、査読無、2016、pp33 - 38
2. 川口隆行、海の歌が響き渡る場所 『原子爆弾の記録 ヒロシマ・ナガサキ』と蘭嶼、現代思想、44 - 15、査読無、2016、pp152 - 156
3. 川口隆行、山代巴「或るとむらい」論 朝鮮戦争と原爆表現の生成、社会文学、43、査読有、2016、pp119 - 130
4. 齋藤一、核時代の英米文学者 Hermann Hagedorn, The Bomb that Fell on America (1946)の日本語訳(1950)について、原爆文学研究、15、査読無、2016、pp51 - 6
5. 松永京子、ジュラルド・ヴィゼナーの『ヒロシマ・ヴギ』における原爆ナラティブの軌跡 大田洋子とね「ネイティヴ・サヴァイヴァンス」をめぐる、原爆文学研究、15、査読無、2016、pp61 - 75
6. 松永京子、再生される身体 文学における日系被爆者表象、エコクリティシズム・レビュー、9、査読有、2016、pp79 - 89
7. 野坂昭雄、原爆写真というメディアと詩、原爆文学研究、15、査読無、2016、pp86 - 100
8. ゴーマン マイケル、核の不安から核の無関心へ アメリカの大衆文化における核のイメージの変容、原爆文学研究、15、査読無、2016、pp112 - 126
9. 山本昭宏、「核のカサ」の下の「理想」と「現実」 一九六三年～六七年の論壇の議論を中心に、原爆文学研究、15、査読無、2016、pp136 - 147
10. 中野和典、イメージのネットワークを問いなおす 「元寇」と『黒い雨』、原爆文学研究、15、査読無、2016、pp211 - 216
11. 楠田剛士、『美しい夏キリシマ』と戦争の記憶、国語と教育、41、査読無、2016、pp151 - 160
12. 野坂昭雄、映画『二十四時間の情事』における表象の方法、原爆文学研究、14、査読無、2015、pp15 - 26
13. 高野吾朗、わが英詩は如何にして「核」「戦争」「原爆」と切り結びしか、原爆文学研究、14、査読無、2015、42 - 65
14. 野坂昭雄、カタストロフィ後に 詩 を書くということ、原爆文学研究、14、査読無、2015、pp74 - 82
15. 松永京子、原爆文学「古典」再読2 佐多稲子『樹影』報告、原爆文学研究、14、査読無、2015、pp117 - 124
16. 楠田剛士、「長崎原爆と復興の言説」の問題化、原爆文学研究、14、査読無、2015、pp145 - 149
17. 楠田剛士、長崎原爆の復興をめぐる詩歌、原爆文学研究、14、査読無、2015、pp150 - 168
18. 中野和典、原爆文学「古典」再読3 大田洋子『屍の街』報告、原爆文学研究、14、査読無、2015、pp205 - 209
19. 山本昭宏、「関係の非対称性」の視点から「原爆文学」を解きほぐす、原爆文学研究、14、査読無、2015、pp245 - 250
20. 高榮蘭、「原爆」をめぐる想像力の枠組み ベトナム戦争と「アジア」言説をてがかりに、原爆文学研究、14、査読無、2015、pp264 - 282
21. 中谷いずみ、ナショナリズムの語りと新自由主義 排外主義言説と小林よしのり『戦争論』、社会文学、42、2015、査読有、pp92 - 105
22. 中谷いずみ、専有された 戦争の記憶 井伏鱒二「黒い雨」における 庶民・天皇・被爆者、日本近代文学、93、査読有、2015、pp137 - 151
23. 川口隆行、原爆体験の 表現 と 運動、原爆文学研究、13、査読無、2014、pp188-195
24. 中野和典、原爆文学「古典」再読1 井伏鱒二『黒い雨』報告、原爆文学研究、13、査読無、2014、pp157 - 159
25. 中野和典、『黒い雨』はどのように読まれてきたか?、原爆文学研究、13、査読無、2014、pp160 - 173
26. 中谷いずみ、『黒い雨』とベトナム戦争、原爆文学研究、13、査読無、2014、pp179 - 187
27. 楠田剛士、『原爆児童文学集』の語り、叙説、3-12、査読無、2014、pp 38 - 46
28. 野坂昭雄、戦争詩の視覚性に関する試論

丸山薫の作品を手がかりに、近代文学論集、40、査読有、2014、pp30 - 43

29. 山本昭宏、「祈り」と「怒り」の広島：原爆孤児救護運動とサークル運動を中心に、史料、98-1、査読有、2014、pp 202 - 234

30. 山本昭宏、戦後史のなかの被爆者像：ポピュラー文化におけるその定着と変容を中心に、ノートル・クリティーク、7、査読有、2014、pp2 - 22

31. 山本昭宏、第五福竜丸事件からビキニ事件へ：ビキニ事件の受容からみる日本人の核意識の変容、年報日本現代史、19、査読無、2014、pp153 - 184

32. 高榮蘭、グローバリズムが呼び覚ました「ゾンビ」に遭遇した時 ベトナム戦争・日韓国交正常化・漢字文化圏の交錯を手掛かりに、区域、3、査読有、2014、pp330 - 337

33. 松永京子、Leslie Marmon Silko and Nuclear Dissent in the American Southwest、The Japanese Journal of American Studies 25、査読有、2014、pp 67 - 87

34. 松永京子、Before and After the Quake: Ruth L. Ozeki 's Global Narrative in the Nuclear Age、AALA Journal、20、査読無、2014、pp84 - 96

〔学会発表〕(計27件)

1. 高榮蘭、Japan is Nobody 's Ally: Memories of Empire and the Story of ' The Korean War '、Empire and Others Symposium、2017・3・21、UCLA (アメリカ合衆国)

2. 川口隆行、ふたつの戦後文化運動 詩画人四國五郎の軌跡、国際WS「東亜冷戦與 移動 強制労働 的経験與記憶」2017・3・4、淡江大学 (台湾)

3. 中谷いずみ、「アジアの連帯」と強制連行の記憶 / 記録 松田解子『地底の人々』、国際WS「東亜冷戦與 移動 強制労働 的経験與記憶」2017・3・4、淡江大学 (台湾)

4. 中谷いずみ、戦争への抵抗と責任 一九五〇年代労働と文学、日本社会文学会、2016・11・12、三重大学 (津市)

5. 川口隆行、われれの詩の会と壁詩・辻詩の運動、戦後文化運動合同研究会、2016・7・30、早稲田大学 (新宿区)

6. 高榮蘭、戦後レジームと女性たちの歴史戦争、韓国延世大学国学研究院HK事業団、第37回社会人文学ワークショップ「嫌悪と民主主義」、2016・7・27、東京大学 (目黒区)

7. 高榮蘭、帝国日本の戦争と書記言語をめぐる攻防、UCR The Summer Study Abroad Program at Josai、2016・7・18、城西国際大学 (千代田区)

8. 楠田剛士、The Short-Form Poetry of Post-Atomic Nagasaki Reconstruction AAS-in-ASIA 2016、2016・6・24、同志社大学 (京都市)

9. 松永京子、Radioactive Discourse in Hiroshima: the Korean Hibakusha Redress Movement、AAS-in-ASIA 2016、2016・6・24、同志社大学 (京都市)

10. 山本昭宏、Conserving Fukushima、Association for Asian Studies Annual Conference、2016・4・2、Washington State Convention Center (アメリカ合衆国)

11. 松永京子、原爆、人種、環境 Langston Hughes の "Simple" Stories を中心に、神戸市外国語大学英米学会、2015・12・6、神戸市外国語大学ユニティ (神戸市)

12. 松永京子、公民権運動と反核運動のはざままで アフリカ系アメリカ文学における核・原爆表象の考察、中四国アメリカ学会、2015・11・28、県立広島大学 (広島市)

13. 齋藤一、被爆体験と「研究」 清水春雄について、日本英文学会関東支部大会、2015・10・31、慶応義塾大学 (港区)

14. 松永京子、「再生」される hibakusha の身体 日系アメリカ文学における hibakusha 表象、エコクリティシズム研究学会、2015・8・8、広島市立大学サテライトキャンパス (広島市)

15. 松永京子、Mining the Uranium Narrative: Environmental Injustice, the Oglala Incident, and Censorship、ASLE Eleventh Biennial Conference、2015・6・24、University of Idaho (アメリカ合衆国)

16. ゴーマン マイケル、Transcultural Landscapes, Social Injustice, and Environmental Exploitation in the Poetry of Gary Snyder, Lawson Inada, and Sherman Alexie、ASLE Eleventh Biennial Conference、2015・6・24、University of Idaho (アメリカ合衆国)

17. 高榮蘭、"Hiroshima," "Kwangju," and the Appropriation of Memory : The Anti-Nuclear Movement and Support for Korean Democratization in the 1980s、UCLA Trans-Pacific Symposium、2015・6・5、UCLA (ア

メリカ合衆国)

18. 高野吾朗、Writing on Catastrophies as a Poet2015、American Comparative Literature Association、2015・3・28、Sheraton Seattle (アメリカ合衆国)

19. 川口隆行、戦後日本と原爆の表象、国際学術ワークショップ「日本近現代文学・文化研究最前線」、2015・3・22、淡江大学(台湾)

20. 川口隆行、冷戦文化と沖縄 『琉大文学』復刊を通じて想起する 50 年代、国際シンポジウム《文化と記憶のポリティックス》、2014・12・23、東京外国語大学(府中市)

21. 高榮蘭、グローバリズムと漢字文化圏をめぐる文化政治 「ベトナム戦争」×「日韓国交正常化」という記憶装置から、高麗大学校日本研究センターHK事業団、2014・12・22、高麗大学校(大韓民国)

22. ゴーマン マイケル、Oh, the Humanity Nuclear Apocalypse and Cannibalism in Post-Apocalyptic Film2014、ISLE-EA; International Symposium on Literature and Environment in East Asia、2014・11・22、名桜大学(名護市)

23. 松永京子、The Legacy of Radioactive “Trauma” in Film: Uchida’s Odayaka na nichijou and Kurosawa’s Ikimono no kiroku2014、ISLE-EA; International Symposium on Literature and Environment in East Asia、2014・11・22、名桜大学(名護市)

24. 野坂昭雄、映画『二十四時間の情事』が映し出す「ヒロシマ」、日本近代文学会、2014・11・22、東京女子大学(杉並区)

25. ゴーマン マイケル、Zen and the Art of Fiction: Ontological Explorations in Ruth Ozeki’s A Tale for the Time Being2014、Western Literature Association Conference、2014・11・6、The Fairmont Empress, Victoria, British Columbia

26. 中谷いずみ、「ラディカル」な運動の戦略 / 受容 主体表象と承認の政治、唯物論研究協会、2014・10・18、東京農工大学(府中市)

27. 松永京子、Before and After the Quake: Ruth L. Ozeki’s Global Narrative in the、AALA 25th Anniversary International Forum、2014・9・28、京都外国語大学(京都市)

〔図書〕(計8件)

1. 川口隆行、中野和典、中谷いずみ、野坂昭

雄、山本昭宏、楠田剛士、松永京子、高榮蘭、齋藤一、高野吾朗、ゴーマン マイケルほか、原爆を読む文化事典、青弓社、2017、350 頁

2. 川口隆行、中谷いずみ、楠田剛士ほか、「サークルの時代」を読む 戦後文化運動研究への招待、影書房、2016、368 頁

3. 齋藤一ほか、異文化理解とパフォーマンス Border Crossers、春風社、2016、502 頁

4. 山本昭宏、教養としての戦後 平和論、イースト・プレス、2016、224 頁

5. 川口隆行ほか、21 世紀の三島由紀夫、翰林書房、2015、320 頁

6. ゴーマン マイケル、松永京子、中野和典ほか、核と災害の表象 日米の応答と証言、英宝社、2015、231 頁

7. 山本昭宏、核と日本人: ヒロシマ・ゴジラ・フクシマ、中央公論新社、2015、266 頁

8. 松永京子ほか、Critical Insights: American Multicultural Identity、Salem Press、2014、238 頁

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

川口 隆行 (KAWAGUTI Takayuki)  
広島大学・教育学研究科・准教授  
研究者番号: 30512579

### (2) 研究分担者

中谷 いずみ (NAKAYA Izumi)  
奈良教育大学・教育学部・准教授  
研究者番号: 10366544

齋藤 一 (SAITOU Hajime)  
筑波大学・人文社会学研究科・准教授  
研究者番号: 20302341

野坂 昭雄 (NOSAKA Akio)  
山口大学・人文学部・准教授  
研究者番号: 20331936

楠田 剛士 (KUSUDA Tsuyoshi)  
宮崎公立大学・人文学部・助教  
研究者番号: 20611667

ゴーマン マイケル (Michael GORMAN)  
広島市立大学・国際学部・准教授  
研究者番号: 20625892

高 榮蘭 (KO Youngran)  
日本大学・文理学部・教授  
研究者番号: 30579107

中野 和典 (NAKNO Kazunori)  
福岡大学・人文学部・准教授  
研究者番号: 40455176

松永 京子 (MATSUNAGA Kyouko)  
神戸市外国語大学・外国語学部・准教授  
研究者番号：50612529  
高野 吾朗 (TAKANO Goro)  
佐賀大学・医学部・准教授  
研究者番号：60404167  
山本 昭宏 (YAMAMOTO Akihiro)  
神戸市外国語大学・外国語学部・准教授  
研究者番号：70644996

(3)研究協力者

岡村 幸宣 (OKAMURA Yukinori)  
原爆の図丸木美術館学芸員  
李 文茹 (LEE Wenju)  
淡江大学 (台湾) 助理教授  
シェリフ アン (Ann SERIF)  
オーバーリン大学 (アメリカ合衆国) 教授